

ふるさとの風 二〇十二年 卯月 〈増補版〉

# 柳緑花紅

〔桜の歌聖西行〕

Nothing compares to the changing beauty of nature

折節の移り変わるこそ ものごとにあはれなれ

～徒然草～

ふるさとの風

～卯月～



山紫水明の国 日本… 太古の昔から私たちは四季の移ろいを美しいと思う感性を身につけてきた。

## 柳緑花紅

— 桜の歌聖 西行 —

春。

桜花爛漫。日本人は桜を心底愛する。

華麗で満開な桜に酔いしれ、また散りゆく姿に哀惜の情を感じる。

花と月を愛し旅に命をあずけた歌人が、己の魂を三十一文字の美学に託した。

西行法師、法名は円位、名は西行。俗名は佐藤義清。

西行が生まれたのは元永元年（1118）、武士の成長が目覚ましい時代である。

奇しくも同じ年に平清盛が生まれており、二人は武と聖、政治と文化において後世に大きな影響をあたえた。

鳥羽上皇に北面の武士として仕えた西行は、二十三歳の若さで遁世という道を選ぶ。

そして仏道修行のもと諸国を旅し、和歌に自分の魂の遍歴を重ねていった。

没後十五年に成立した勅撰集「新古今和歌集」には、個人として最高の九十四首をも入集し当代随一の歌人とみなされていた。

後鳥羽院が彼の歌を賞讃した言葉がある。

「西行は、おもしろくてしかも心も殊に深く、ありがたくいできがたき方も共に相兼ねて見ゆ。

生得の歌人と覚ゆ。おぼろげの人まねなどすべき歌にあらず」

—後鳥羽院御口伝—

諸国を行脚しつづけた西行が、晩年高野山から平穏な伊勢の地に移り住むようになったのは源平の戦禍の世を嘆いての事である。

高野の山を住みうかれてのち、伊勢の国二見浦の山寺に侍けるに、

大神宮の御山をば神路山と申、大日如来の御垂跡を思てよみ侍ける

深く入りて 神路のをくを 尋ぬれば またうゑもなき 峰の松風

—千載和歌集 一二七八—

治承四年（1180）、平清盛福原遷都を伊勢で耳にして次の歌を詠んでいる。

「福原へ都遷りと聞きし頃、伊勢にて月の歌詠み侍りしに

～雲の上や 古き都になりけり すむらむ月の影は変らで～」

—西行上人集 四三五—

西行の草庵は神宮のほとりのあちこちに結ばれた。

歌枕の地二見浦の安養山に結ばれた草庵は、海上はるかに伊勢湾の島々を望む風光絶佳の場所であった。その庵での生活を西行の弟子の神官荒木田満良（蓮阿）は次のように語っている。

「西行上人二見浦に草庵結びて、浜菘を折り敷きたる様にて哀れなる住まひみるもいと心すむさま、大精進菩薩の庵の草を座とし給ひけるかもかくやおぼえき。硯は石の、わざどにはあらず、もとより水入る所のくぼみて硯のやうなるが、筆置場などもあるををかれたり。和歌の文台は、花がたみ、扇やうの物を用き。…」

—西行上人談抄—

無造作で簡素なその暮らしぶりは伊勢の数奇者達の共感を呼び、彼は次の句を行住坐臥の口ずさみとしていたという。

～ 一生幾ばくならず、来世近きにあり～

後に芭蕉がこの草庵を訪れた時、西行を偲んで詠んだ歌がある。

～ 硯かと拾ふやくぼき 石の露～

西行の死から五百年、外宮遷宮を拝んだ時の事である。

伊勢での七年間の庵居は神官たちとの交流もあり、和歌の心を彼らに教え連歌にも興じた。また自らも神宮を詠み、後に歌集「御裳濯河歌合」を内宮に、「宮河歌合」を外宮に奉納しており、神域の美しさを詠んだ歌が数多くみられる。

～ 岩戸あけし 天つみことの そのかみに 桜を誰か 植えはじめけむ～

—御裳濯河歌合 一番左—

～ 神路山 月さやかなる ちかひありて 天の下をば 照らすなりけり～

—御裳濯河歌合 二番左—

西行にとって伊勢神宮の存在は確たるものとなっていった。

「伊勢にまかりたるけるに、大神宮にまありてよみける

～ 榊葉に 心をかけん 木綿四手て 思えば神も 仏なりけり～

—山家集 一二二三—

僧徒の神宮参詣や天照大神を密教の本尊大日如来の垂迹とする観念において、西行は時代の先駆者なしたのである。

文治二年（1186）、西行は東大寺再興の勧進のため、伊勢の地をあとにし奥州平泉へ旅立つ。その後、京都嵯峨に草庵を結び、建久元年（1190）、二月二十六日河内国の弘川寺の草庵において入滅した。自然美へのあくなき探求心、現実への深い洞察力を持ち続けた七十三年の生涯であった。

願わくは 花の下にて 春死なん その如月の 望月の頃

—山家集 七七—

自身がかつて詠んだ歌のとおり最愛の桜の盛り、満月の元、釈迦入涅槃の日の事である。

僧形であった西行が、神前に近づけなかった故に神宮を伏し拝み詠んだ歌がある

何事のおはしますをば 知らねども かたじけなさに 涙こぼるる

神宿る聖地が人間の魂によびかける言霊は、時空を超えていつの時代も同じである。

